

寺
こよみ

十月

一日 板屋お講

一日 報恩講前清掃奉仕

一三日 富山滑川報恩講

一四日 魚津報恩講

一五日 お道具磨き

一六日 三日市お講

一八日 おけそくもみ

一九日 報恩講 逮夜

二〇日 報恩講 満座

二二日 終田柳沢窪野田家

報恩講

二五日 上、下飯野高島、

新浜報恩講

二六日 東狐青木報恩講

三〇日 板屋報恩講

寺報

善 巧

発行

〒938-0862 富山県
下新川郡宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
TEL (0765) 65-0055
FAX (0765) 65-0975



報恩講におまいりしましょう

十月十九・二十日
報 恩 講

十一月四・五日
空 華 忌

この八月、十二日間かけてシルクロード各地を回ってきた最後に、西安に二泊した。その折、善導大師ゆかりの香積寺を訪ねることができた。これは大師没後の神龍二年（七〇六年）、その遺徳を偲んで建てられたもので、三十三メートル十二層の塔だけ、創建当時のものであるという。さまざまな事情で訪れたのは五時を回っていたが、日はまだ高い。

ナーモアミダブ
ナーモアミダブ
ナーモアミダブ…。

奥の部屋から念仏の声が聞こえてきたのは思いがけない出来事であった。単調な旋律に乗って、素朴な、懐かしいような律動をそれはくり返している。そとと部屋をのぞくと、十数人の男女が、壁に向かって座ったまま唱和している。それは初めて聞く者でも唱和できるような、いやむしろそれを誘うかのような、なつかし

香積寺のことなど

い旋律である。実際、同行の何人かが、小さな声でそれに合わせて念仏しているのは、不思議な光景であった。

今現在、彼の地で行われている念仏がどのような内容のものであるのか、おそらく私たちの教えとは大きな隔たりがあるにちがいない。それにしても、生きた念仏の声を聞くと、予想もしない出来事であった。

念仏の

涼風吹くや

香積寺

帰り際、軒先で年老いた猫が昼寝しているのを、そとと近づいて私は写真に収めておいた。

行信教教授

山本 攝先生



空華忌講話 (4)

行信教校長

利井明弘先生



僧鑑和上が「領解文」のことを「改悔文」といい、それが安心のものさしであると言われた。そのものさしはどういうことが説かれてあるかという、四つありまして、「安心」そして「報謝」「師徳」「法度」と。「もろもろの雑行雑修自力のこころをふりすてて」というところは空華で言いますと、「当相自力他力」。それを善導大師の二河白道でいいますと、「西方百千の道」そして「無人空廻」独りぼっち。群賊悪獸が追いかけてくる、前に二河白道が。そこで立ち止まった旅人が、前へ行っても多分あの細い白道なら火の川水の川に沈んでしまう。そして留まっていても群賊悪獸が追いかけてくる。逃げようとしても「南北辺無し」

と書いてあるから、どこへも逃げるが出来ない。そこで昨日話したところは、

「どうせ死ぬんなら」といきかけると、群賊悪獸が、この「六根・六識・六塵・五陰・四大」と言われているから、我と我が身、心と体が私を追いつめていく。「水火」の二河つていうのは、水は貪欲、それから火は瞋恚といわれているから、これも我が煩惱やね。

三毒の煩惱というけど、貪欲と瞋恚、これが具体的なもの、愚痴というのはその全体をつつんでいるもんじゃないうかと思う。並列と違つてね。だから貪欲と瞋恚が表へよく出てくるね。だから、一歩踏み出そうとする前に、聞くわけよ。お釈迦さまの「行きたまへ、絶対落ちることはないんだ。

必ず渡れるから「行きなさい」と。向こうからは阿弥陀さまが「汝一心正念にして直ちに來れ。我能く汝を護らむ」これが聞こえてくる。自力ならお釈迦さまの声と阿弥陀さまの声は聞こえないね。

仏様の言葉を素直に受け取れるか受け取れないかが、「当相自力他力」。「そうじゃなかったんだ」と「すべてはおかげだったんだ」と味わえた時に阿弥陀さまの声やら、お釈迦さまのおすすめの声が素直に入ってくる。白道を歩く時に、ちよつと歩くと群賊悪獸が後ろへやってきて、呼び返すんですね。「私達はお前を殺すために追いかけてきたのではない。そのまま歩いていったら、火の川水の川に落ちて死んでしまうから、帰つてこい」と、群賊悪獸が岸から呼ぶんです。これ、自分で決めて行つたのだから戻るね。だけれども、お釈迦さまと阿弥陀さまの呼び声を聞いて歩き出したか

ら、振り返ることなく彼は白道を進んでいった。これが善導大師のいう二河白道の譬えですね。そこを味わうと、「諸々の雑行雑修自力の心を振り捨てて」これがそれに気が付かされるといふ世界でしょうね。

命がけて聞かなければいけないことはたくさんある。「命がけて聴聞」というのは死ぬ気でとかいうんじゃない。今聞くんです。私に阿弥陀さまがいらつしやる。いのち終わつたら必ずお浄土に生まれさせていただく。「汝一心に正念に直に來れ。我能く汝を護らむ」自分のためと聞けるということが命がけの聴聞でしょうね。これが他人事に聞こえてくるうちは、時が至らない、宿善開發してないんですね。同じ念仏を聞いててもね。「もろもろの雑行雑修自力のこころをふりすてて」私達はどうも自力の心で生きておるようです、ある意味で。「ええことしてて」で。そう思っていたら、なか

か「一心に阿弥陀如来、われらが今度の一大事の後生」必ずたすけてくださる阿弥陀さまがいらつしやる、ということがなかなか聞きにくい。(つづく)

寺
こよみ

十一月

一日 愛本新お講
三日 おけそくもみ

四 日 空華忌
五日

一〇日 中新報恩講

一二日 上野報恩講

一三日 出報恩講

一六日 浦山新お講

一七日 柝沢報恩講

一八日

二四日 中陣報恩講

二五日

二六日 浦山新報恩講

二七日 石田報恩講

二九日



蓮如上人五百回遠忌法要御満座の消息

去る三月十四日よりお勤めしてまいりました蓮如上人五百回遠忌法要は、本日ご満座をお迎えいたしました。十期百日間にわたるご法要を厳肅盛大にお勤めすることができましたのは、仏祖のご加護と上人のご遺徳は申すまでもなく、全世界に広がる僧侶門信徒の方々の報恩謝徳のご懇念のたまものと、まことに有り難く存じます。

浄土真宗は本願成就の南無阿弥陀仏の名号のはたらきによって、凡夫が仏に成る教えであります。しかも、今ここに正定聚の身となることは、生死の迷いの根本を解決し、あらゆるいのちが如来の大悲につつまれていることに気付かされ、人間同士、互いに御同朋であることを知らされることであります。そこから、人々への敬愛のこころ、あらゆるいのちを大切にすることが深まり、如来のみこころにかなう生き方を志す新しい人生が生まれます。

このご法要を通して、私どもの「いのち」を育む「環境」問題や「家族」について学びました。私どもの周辺には「いのち」の尊厳を傷つける問題が山積しています。み教

えを学び、お念仏を申しつつ、自らの人生の課題として、これらに取り組んでいくことが宗門のすすめていきます基幹運動であります。

蓮如上人のご生涯を通じてのご念願は、一人でも多くの方が阿弥陀如来の本願を信じ、お念仏を喜ぶ身になることでした。私たちは、今後、具体的な行動によってお応えいたしたいと思います。そのためには、「聴聞」とともに、お互いに意見を交わし合う「話し合い」の法座を持つことが欠かせません。さらに、み教えが広く行きわたり、次の世代へ受け継がれるよう、文書などによってお寺との交流を密接にする一方、ご本尊阿弥陀如来を中心にした家族生活の形をととのえることも大切であります。

親鸞聖人によって開かれ、蓮如上人によって広く人々のこころに定着せしめられた浄土真宗のみ教えが、全世界の人々のいのちの依り所となり、こころの灯火となりますよう努めてまいりましょう。

平成十年
一九九八年
十一月十二日

龍谷門主 釋 即 如

本願寺御影堂平成大修復に際しての消息

このたび、有縁の皆様のご尽力とご協賛を得、本願寺御影堂の修復工事を行うことになりました。

御影堂は文永九年、東山大谷にあった宗祖親鸞聖人の墳墓を吉水の地に移し、廟堂を建て、ご影像を安置したことに始まります。現在の御影堂は本願寺がこの地に落ち着いて四十余年後、寛永十三年に建築され、今日まで、三百六十三年を経過しました。その間、寛政十二年より十年の歳月をかけた大修理のほか、数度の修理を経っていますが、今日、その傷みが甚だしく、寛政の修復にもまさる大修理を必要とするようになりました。

御影堂は親鸞聖人のみ教えを讃仰する私たちの心のふるさとであり、よりどころであります。聖人は、真に頼るものなく、自他のいのちを傷つけて生きている私たち一人ひとりによびかけてくださる南無阿弥陀仏のお念仏をおすすめくださいます。聖人のみあを慕う人々は苦しみも悲しみも悦びも共にしてくださる御開山様親鸞様とこのご真影

様を仰がれ、心をこめて御影堂を護り、受け伝えてくださいました。

このたびの修復には、国の重要文化財として国庫の補助を受けますが、今日、世界遺産として登録されている文化財を創建護持して下さった先人の業績を後世にとどめるとともに、宗祖のみ教えを次の世代へ伝えようとする私たちの決意を表す事業として、僧侶門信徒のご懇念、一人でも多くの方のご協賛を得て、完遂を目指したく存じます。十年の歳月を要すると予想されます工事中には様々の困難があるかと思われませんが、立派に完成のうえ、宗祖七百五十回大遠忌をお迎えいたしたいと願っております。

平成十一年
一九九九年
一月十六日

龍谷門主 釋 即 如

本願寺叡澤堂平如大進財二親への前息



大藪トキエさんに感謝状

七月十九日祠堂会
お満座の席で、内陣
のお道具等をご寄進
いただいた下村の大
藪トキエさんに、感
謝状と記念品を贈呈。
下の写真はその記
念五条をつけた法輪
寺照行寺住職若院の
四人。



高田慈昭先生と青木新門氏を囲んで7/19

今年の永代祠堂会は前半、福井千福寺の高務哲量先生と後半、行信教校教授高田慈昭先生におこしいだきました。



第四回 門信徒ゴルフ大会
棚山ゴルフ場 9/5

例年、空華忌法要の頃に行っていたお寺のゴルフ大会。今年は一人でも多くのご門徒の参加を期待して、日曜日の午後からのスタート。十二時頃には、浦山、下立、音沢、中陣、魚津、入善、富山と各地区から十六名がエントリー。「優勝したらゴメン」とその気で臨んだ大会事務局は返り討ち。富山市茶屋町の佐々木武和さんが初出場初優勝。
プレー後は、全員善巧寺門徒会館に集って楽しい表彰式と懇親会をしました。
(巧照)

- | | |
|---------|-----------------|
| 一
日 | 下立愛本お講 |
| 二
日 | 愛本新報恩講 |
| 三
日 | 愛本新中ノ口赤田
報恩講 |
| 六
日 | 下村報恩講 |
| 八
日 | 大橋報恩講 |
| 一〇
日 | 内山報恩講 |
| 一三
日 | 下立愛本報恩講 |
| 一四
日 | 浦山お講 |
| 一六
日 | |
| 一七
日 | |
| 一八
日 | 音沢報恩講 |
| 二〇
日 | |
| 二一
日 | |
| 三〇
日 | もちつき |
| 三一
日 | 除夜会 |

寺
ごよみ

十二月

萩の寺
めぐり訪ねて
京の旅
酔芙蓉
境内いっばいに
咲きそろう
喜子前坊守

報 恩 講

「ほんこさま」はご開山親鸞聖人のご法事、浄土真宗の門徒にとって大切なご法要です。どうぞお誘い合わせおまいりください。

十月十九日 午後一時半 速夜

午後七時半 初夜

二十日 午前七時 晨朝

午前十時 日中

午後一時半 満座

布教 発願寺若院

川崎順正師



空 華 忌

善巧寺第十一世住職明教院僧鑑さまのご法事です。

くろべの川の水清く 月訪う里の…

と歌って親われた僧鑑さまのご法要に是非おまいりください。

十一月四日 午後七時半 初夜

五日 午前七時 晨朝

午前十時 日中

午後一時半 満座

布教 行信教校教授

山本攝先生



ほんこさん廻り

十月十三日から

ご門徒さんを一軒一軒おたずねして親鸞聖人のご法事をお勤めします。魚津地区は一ヶ月早くなりますのでご注意ください。

お仏壇を念入りにお掃除して、朱ろうそく、お香、お花、聖典、念珠の用意を。お仏壇の中は阿弥陀さまと親鸞聖人蓮如上人（九字名号十字名号）のお三幅だけ、水や酒は供えません。

お正信偈が始まって御文章が終るまで一緒に。お茶菓子の心配はその後です。

朱ろうそくは善巧寺のほんこさままでお渡しします。

今年の会費は九千円

会費とは、かかり銭、板がえしとも言い、お寺の運営費になります。

継職法要記念事業懇志

右の懇志六万円を分割して納めていただいている方は、三年目の今年度中にお願ひ致します。事情がある方は引き続きお願ひします。

あとも三ヶ月で今年も終わりますが、善巧寺仏教婦人会も来年から新役員にかわります。一年がかりでお願いの度毎にご説明をしています。来年から二年間は一月のお講当番、下村大橋浦山柵屋熊野の方々に担当していただきます。

仏教婦人会

来年は新役員に

二年後は、二月当番下立の番になります。

善巧寺企画展は延期になりました。



法輪寺（高島さん）の庫裡が新しくなりました。

合 掌

暑い夏でした。そして今度は台風のと風。被害はありませんでしたか、お見舞い申し上げます。

善巧寺の夏は毎年賑やかそのもの、誰も訪れない日は一日もないのでは…。それでも聞法の時間はまだまだです。大阪の方では、定例法座は月に二回、一日二座は勤まるお寺が多く、それもあちこちそんなお寺がありますから、聞法のご縁は多いのです。

善巧寺の定例は、一日と十六日のお講、そして十七日のお経会の三座があります。仏さまの真実の法を聞く時間を作ってください。悔いなく人生を過しましょう。

雪ん子二十周年記念公演には沢山の方が見て下さってありがとうございます。

みなさんのご協力をつくづく有難く思いました。

